

豊川北小校区・彩都の丘学園校区 タウンミーティング



大阪大学箕面キャンパス跡地



大学について



- 1979年 大阪外国語大学のキャンパスとして、大阪市内から移転
- 2007年 大阪大学と統合、大阪大学箕面キャンパスとなる
- 2021年 箕面キャンパスの船場地区への移転に伴い、市が取得



取得の経緯

移転の契機

理由①

大阪大学との統合

➡ 箕面キャンパスの学生が減少

➡ サイズが大きすぎ運営が非効率化

理由②

他キャンパス（豊中、吹田）との交通が不便



取得の経緯

移転の決定

北大阪急行線延伸に伴い整備される船場地区へ移転

大阪大学が期待する効果

- 教育研究の発展
- 学習環境の向上
- 活気あるまちづくりへの寄与



取得の経緯

問題点

旧箕面キャンパスは、市街地に
残された貴重なまとまった空間

懸念材料

大阪大学が民間へ直接売却すると

- ①無秩序な土地利用
- ②乱開発

に繋がるおそれ



取得の経緯

解決策

市の土地利用への関与



大阪大学の移転に伴い取得し、いったん保有



土地 71億円

建物 27億円

合計 98億円



活用に関する意見など

市議会での主な意見

- ①校舎を活用した研究教育機関
- ②運動場を活用したスポーツ施設
- ③地域活性化に繋がる賑わい施設 など



活用に関する意見など

栗生間谷自治会からの意見

- ①工事については、地元とよく相談すること
- ②交通量や騒音の増大等、著しい住環境の変化がないように
- ③高齢者が多い間谷地区と、若者・子どもが多い彩都地区との間の立地を生かし、情報発信機能を有した「スポーツ・文化融合施設」
- ④地域のバスが減便とならないような「集客施設」



活用に関する意見など

彩都栗生連合自治会からの意見

- ①工事については、地元とよく相談すること
- ②交通量や騒音の増大等、著しい住環境の変化がないように
- ③子育て世代の多い彩都地区と、経験豊富な間谷地区との間の立地を生かし、「国際文化公園都市の名に相応しいスポーツを中心とした国際文化都市施設」



活用までの流れ

民間事業者の意向

14haと広大なため、用途は一つに限らず複数での活用も検討したい。

様々な手法での活用を検討したい。(敷地の売却又は貸付、建物を活用する場合の売却等)

提案実現に向け、契約までに詳細を決めていくため、地元説明、関係機関との協議をしていきたい。



活用までの流れ

市が求めること

周辺に広がる良好な住環境と調和するよう配慮を求める。

市の財政運営に寄与する一定の経済性を求める。

〈取得費用〉

土地 71億円

建物 27億円

合計 98億円



活用までの流れ

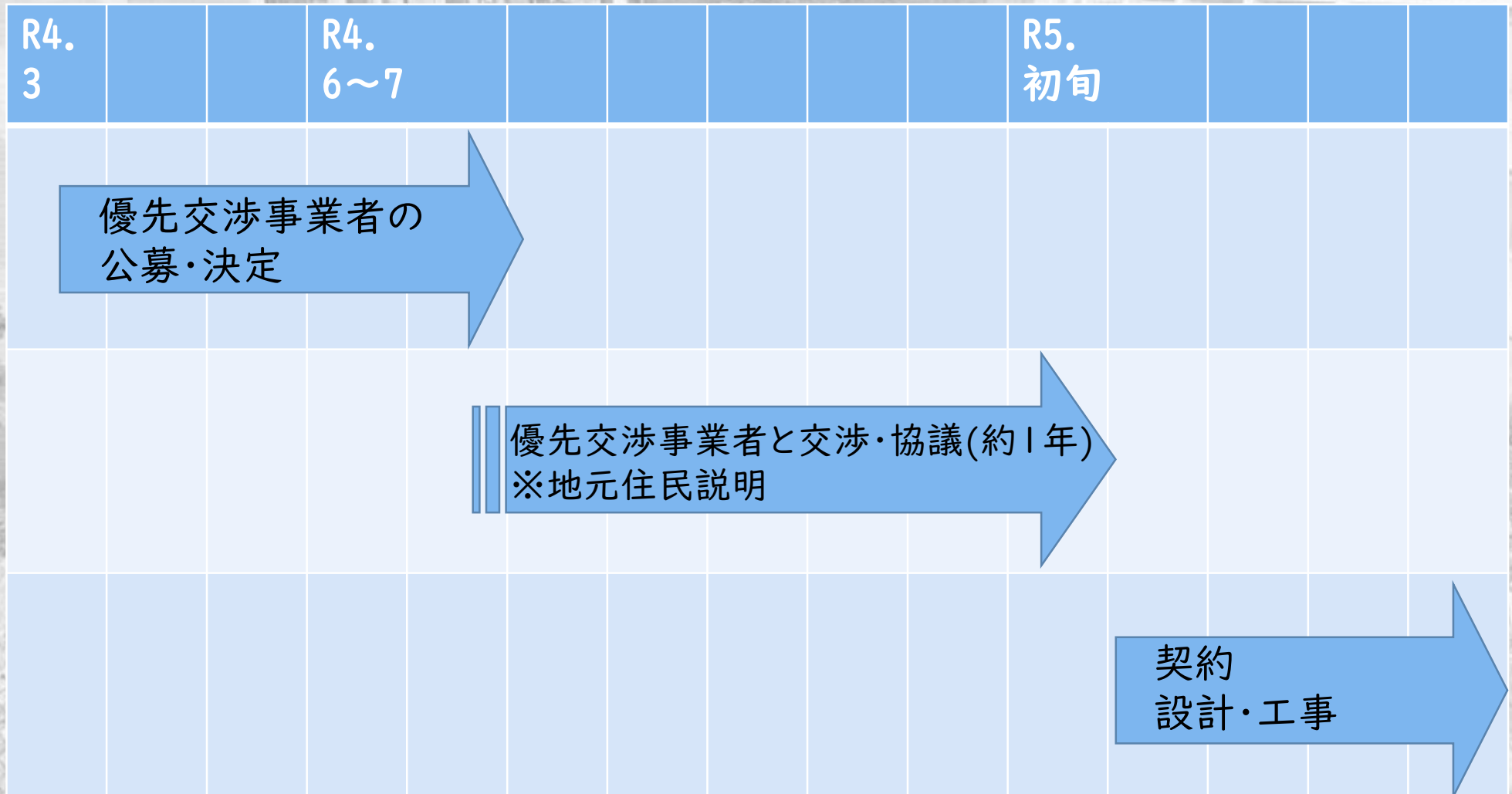
民間事業者の意向

市が求めること

- あらゆる可能性と選択肢を排除せず、民間事業者の自由な発想による提案を公募
- 最も優秀な提案をした者を優先交渉事業者として選定
- 選定後も、すぐに契約・着工するのではなく、提案の実現に向け地元説明を交えつつ、優先交渉事業者と交渉・協議



スケジュール



※現時点での案であり、進捗状況に応じて前後する可能性があります。